

■21世紀COEプログラム(トップ30)に決まった113件

大学名	専攻	研究内容
北海道大	理学研究科生物科学専攻	バイオとナノを融合する新生命科学拠点
帯広畜産大	帯広畜産大学原虫病研究センター	(動物性蛋白質(たんぱくしつ)資源の生産向上と食の安全確保)
北大大	工学研究科機械電子工学専攻	バイオナノテクノロジー基盤未来医工学
秋筑群	医学研究科構造機能系専攻	細胞の運命決定御
東京大	生命環境科学研究科生物機能科学専攻	複合生物系応答機構の解析と農学的高度利用
東京大	生体調節研究所	生体情報の受容伝達と機能発現
東京大	大学院医学系研究科機能生物学専攻	生体シグナル伝達機構の領域横断的研究
東京大	大学院理学系研究科生物科学専攻	「個」を理解するための基盤生命学の推進
東京大	大学院薬学系研究科生命薬学専攻	戦略的基礎創薬科学
東京工業大	生命理工学研究科生命情報専攻	生命工学フロンティアシステム
名古屋大	大学院理学研究科生命理学専攻	システム生命科学:分子シグナル系の統合
名古屋大	大学院生命農学研究科生物機構・機能科学専攻	新世紀の食を担う植物バイオサイエンス
京都大	生命科学研究科統合生命科学専攻	先端生命科学の融合相互作用による拠点形成
京都大	大学院理学研究科生物科学専攻	生物多様性研究の統合のための拠点形成
京都大	生命機能研究科生命機能専攻	生体システムのダイナミクス
京都大	理学研究科生物科学専攻	細胞超分子装置の作動原理の解明と再構成
京都大	バイオシグナル研究センター	蛋白質のシグナル伝達機能
奈良先端科学技術大学院大	バイオサイエンス研究科細胞生物学専攻	フロンティアバイオサイエンスへの展開
九州大	理学府生物科学専攻	統合生命科学
熊本大	発生医学研究センター	細胞系譜制御研究教育ユニットの構築
宮崎医科大	医学研究科生体制御系専攻	生理活性ペプチドと生体システムの制御
姫路工業大	理学研究科生命科学専攻	構造生物学を軸とした分子生命科学の展開
北里大	北里生命科学研究所・大学院感染制御科学府	天然素材による抗感染症薬の創製と基盤研究
慶應大	理工学研究科基礎理工学専攻	システム生物学による生命機能の理解と制御
東日本大	医学研究科機能系専攻	ヒト複合形質の遺伝要因とその制御分子探索
立命館大	生物資源科学研究科応用生命科学専攻	微生物共生系に基づく新しい資源利用開発
近畿大	理工学研究科総合理工学専攻	放射光生命科学研究
	生物理工学研究科生物工学専攻	食資源動物分子工学研究拠点

大学名	専攻	研究内容
東北筑	理学研究科化学専攻	大分子複雑系未踏化学
東京大	金属材料研究所	物質創製・材料化国際研究教育拠点
東京大	数理物質科学研究科物性・分子工学専攻	未来型機能を創出する学際物質科学の推進
東京大	大学院理学系研究科化学専攻	運動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学
東京大	工学系研究科応用化学専攻	化学を基盤とするヒューマンマテリアル創成
東京大	工学研究科応用化学専攻	ナノ未来材料
東京大	総合理工学研究科物質電子化学専攻	分子多様性の創出と機能開拓
東京大	総合理工学研究科物質科学創造専攻	産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成
長岡技術科学大	工学研究科材料工学専攻	ハイブリッド超機能材料創成と国際拠点形成
信州大	工学系研究科生物機能工学専攻	先進ファイバー工学研究教育拠点
名古屋大	理学研究科物質理学専攻	物質科学の拠点形成:分子機能の解明と創造
名古屋大	工学研究科材料プロセス工学専攻	自然に学ぶ材料プロセッシングの創成
名古屋大	工学研究科物質工学専攻	環境調和セラミックス科学の世界拠点
名古屋大	理学研究科化学専攻	京都大化学連携研究教育拠点
名古屋大	工学研究科材料化学専攻	学域統合による新材料科学の研究教育拠点
名古屋大	理学研究科高分子科学専攻	自然共生化学の創成
名古屋大	工学研究科マテリアル科学専攻	構造・機能先進材料デザイン研究拠点の形成
名古屋大	工学府物質創造工学専攻	分子情報科学の機能イノベーション
青山学院大	理工学部付置先端技術研究開発センター	エネルギー効率化のための機能性材料の創製
慶應大	理工学研究科基礎理工学専攻	機能創造ライフコンジュゲートケミストリー
早稲田大	理工学研究科応用化学専攻	実践的ナノ化学教育研究拠点

大学名	専攻	研究内容
北海道大	工学研究科電子情報工学専攻	知識メディアを基盤とする次世代ITの研究
東北大	工学研究科電子工学専攻	新世代情報エレクトロニクスシステムの構築
東京大	大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻	情報科学技術戦略コア
東京大	工学系研究科電子工学専攻	未来社会を担うエレクトロニクスの展開
東京工業大	理工学研究科電気電子工学専攻	フォトニクスナノデバイス集積工学
横浜国立大	大学院工学研究院知的構造の創生部門電気電子と数理情報分野	情報通信技術に基づく未来社会基盤創生
名古屋大	工学研究科電気工学専攻	先端プラズマ科学が拓(ひら)くナノ情報デバイス
名古屋大	工学研究科情報工学専攻	社会情報基盤のための音声映像の知的統合
豊橋技術科学大	大学院工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻	インテリジェントヒューマンセンシング
京都大	情報学研究科社会情報学専攻	知識社会基盤構築のための情報学拠点形成
京都大	工学研究科電子物性工学専攻	電気電子基盤技術の研究教育拠点形成

生命科学

(28件)

化学・材料科学

(21件)

情報・電気・電子

旧7帝大 高い割合

大学別では最も多い11件が採択された東京大は19件を申請していた。「すべてに自信を持つていましたから、十分に満足というわけには:」。学内の応募から厳選して申請した経緯もあり、小簡篤副学長は意外

2件以上選ばれた大学【11件】東大、京大【7件】大阪大、名古屋大【5件】東北大、早稲田大、慶應大【4件】北海道大、東京工業大、九州大【3件】筑波大、立命館大【2件】東京外国语大、東京農工大、横浜国立大、豊橋技術科学大、奈良先端科学技術大学院大、広島大

科の大垣眞一郎・科長は「数は限られている。選ばれたからその研究は評価され、選ばれなかつたから評価されなかつた」というような問題では全くない」。

東大と並ぶ11件の京都大。金田章裕副学長は採択された11件よりも、落とされた4件に触れ、「世界に出しても恥ずかしくない」という自信を持つて申請したので、4件も落とされたのはきわめて残念だ」と話す。

私立では早稲田大、慶應大の採択が各5件と立った。慶應大は理工学研究科は申請した3件がすべて採択された。2年前に

北海道大の中村睦男学長も「申請したのは精選された5分野8件だったのが4件で満足するつもりはない。次回はもっと取りれるよう即刻、検討を始めた」と話す。北大では学長や副学長

だ。代表の中辻憲夫教授は「再生医科学という新しい学際分野で、外部と共同研究したり、若手を育成したりするための基盤整備の財源確保が厳しくなってしまった」。

北海道大の中村睦男学長も「申請したのは精選された5分野8件だったのが4件で満足するつもりはない。次回はもっと取りれるよう即刻、検討を始めた」と話す。北大では学長や副学長

だ。大学間の競い合いが本格化するなか、各大学はこの結果をどう受け止めたのか。

東大・京大最多11件 特色をかした地方大も

北海道大の中村睦男学長も「申請したのは精選された5分野8件だったのが4件で満足するつもりはない。次回はもっと取りれるよう即刻、検討を始めた」と話す。北大では学長や副学長

だ。大学間の競い合いが本格化するなか、各大学はこの結果をどう受け止めたのか。

北海道大の中村睦男学長も「申請したのは精選された5分野8件だったのが4件で満足するつもりはない。次回はもっと取りれるよう即刻、検討を始めた」と話す。北大では学長や副学長

だ。大学間の競い合いが本格化

大学院工学専攻	
東京大学	工学系研究科電子工学専攻
東京工業大	理工学研究科電気電子工学専攻
横浜国立大	大学院工学研究院知的構造の創生部門電気電子と数理情報分野
名古屋大	工学研究科電気工学専攻
名古屋大	工学研究科情報工学専攻
豊橋技術科学大	大学院工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻
京都大	情報学研究科社会情報学専攻
京都大	工学研究科電子物性工学専攻
大阪大	情報科学研究科マルチメディア工学専攻
奈良先端科学 技術大学院大	情報科学研究科情報処理学専攻
広島大	ナノデバイス・システム研究センター
九州大	システム情報科学府情報工学専攻
慶應大	理工学研究科総合デザイン工学専攻
中央大	理工学研究科情報工学専攻
早稲田大	理工学研究科情報科学専攻
名城大	理工学研究科電気電子工学専攻
立命館大	理工学研究科総合理工学専攻

北海道大	文学研究科人間システム科学専攻
東北 大	国際文化研究科国際文化交流論専攻
東京 大	大学院総合文化研究科超域文化科学専攻
東京 大	大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻
東京 大	大学院教育学研究科総合教育科学専攻
東京外国語大	地域文化研究科地域文化専攻
お茶の水女子大	人間文化研究科人間発達科学専攻
名古屋大	文学研究科人文学専攻
京都 大	文学研究科歴史文化学専攻
京都 大	文学研究科行動文化学専攻
大阪 大	文学研究科文化表現論専攻
広島 大	高等教育研究開発センター
九州 大	比較社会文化学府日本社会文化専攻
大阪市立大	文学研究科哲学歴史学専攻
慶應 大	文学研究科哲学・倫理学専攻
国学院大	文学研究科神道学専攻
法政 大	人文科学研究科日本史学専攻
早稻田大	演劇博物館
早稻田大	文学研究科芸術学（美術史）専攻
立命館大	文学研究科史学専攻

北海道大	大学院地球環境科学研究科大気海洋圏環境科学専攻
筑波大	人間総合科学研究科体育科学専攻
東京大	大学院総合文化研究科広域科学専攻
東京外国语大	地域文化研究科地域文化専攻
東京農工大	生物システム応用科学研究科生物システム応用科学専攻
横浜国立大	大学院環境情報研究院自然環境と情報部門
金沢大	自然科学研究科地球環境科学専攻
岐阜大	連合獣医学研究科獣医学専攻
薬機能科学大	大学院工学研究科博士後期課程環境・生命工学専攻
京都大	アジア・アフリカ地域研究研究科・東南アジア地域研究専攻
京都大	エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻
京都大	防災研究所
大阪大	産業科学研究所高次制御材料科学研究院部

鳥	取	大	乾燥地研究センター
愛	媛	大	沿岸環境科学研究センター
佐	賀	大	海洋エネルギー研究センター
長	崎	大	医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻
静	岡	県立	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻
大阪府	立	大	工学研究科物質系専攻
慶	應	大	政策・メディア研究科政策・メディア専攻
上	智	大	外国語学研究科地域研究専攻
玉	川	大	学術研究所
早	稻	田	政治学研究科政治学専攻国際関係・比較政治
愛	知	大	中国研究科中国研究専攻

未来社会を担うエレクトロニクスの展開 フォトニクスナノデバイス集積工学	奈良県 奈良先端 技術大
情報通信技術に基づく未来社会基盤創生 先端プラズマ科学が拓（ひら）ぐナノ情報デ バイス	鳥取県 鳥取大
社会情報基盤のための音声映像の知的統合	広島県 広島大
インテリジェントヒューマンセンシング	九州 大県 (4)
知識社会基盤構築のための情報学拠点形成 電気電子基盤技術の研究教育拠点形成 ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出 ユビキタス統合メディアコンピューティング	長崎県 長崎大
テラビット情報ナノエレクトロニクス システム情報科学での社会基盤システム形成 アクセス網高度化光・電子デバイス技術 電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ プロダクティブICTアカデミアプログラム ナノファクトリー	らの連
マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム	

心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点
言語・認知総合科学戦略研究教育拠点
共生のための国際哲学交流センター

生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築
基礎学力育成システムの再構築
言語運用を基盤とする言語情報報学拠点
誕生から死までのひ間発達科学

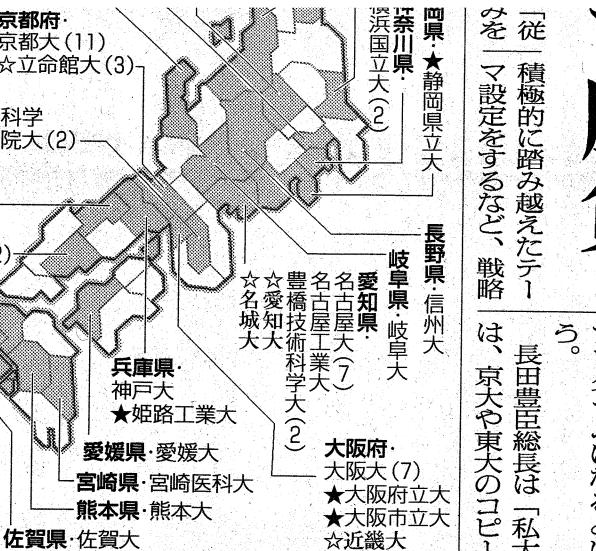
総合テクスト科学の構築
グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成
心の働きの総合的研究教育拠点
インターフェイスの人文学

19世紀型高等教育システム構築と質的保証
東アジアと日本：交流と変容
都市文化創造のための人文科学的研究
心の解明に向けての統合的方法論構築
道徳と日本文化の国学的研究発信の拠点形成
日本発信の国際日本学の構築
演劇の総合的研究と演劇学の確立
アジア地域文化エンハンシング研究センター
都アート・エンタテインメント創成研究

減少で厳しい経営をしている。研究実績や
から一歩遅れることになる。生き残りを模索
の配分割合 割強で、配

生態地球圏システム劇変の予測と回避	分先は旧帝
健康・スポーツ科学的研究の推進	は國立大が6
総合科学創成ステーション	今年度
資料ハブ地域文化研究拠点	
エネルギー・物質代謝と生存科学の構築	過去の業績に応じて補助
物・生態環境リスクマネジメント	結局いまでも強いものに
日本海域の環境計測と長期・短期変動予測	一新事業といつても
生動物の生態と病態からみた環境評価	
未来社会の生態恒常性工学	
界を先導する総合的地域研究拠点の形成	
境調和型エネルギーの研究教育拠点形成	緒にして序
害学理の究明と防災学の構築	態は、私立
産業創造指官	入を招いて

産業創造指向インターナショナルセンター	大への国の介 いる」との不 列化させる事
燥地科学プログラム	傷になりかねない。
岸環境科学研究拠点	當自身への不満は、 致す。
洋エネルギーの先導的利用科学技術の構築	（社会部・長谷川
射線医療科学国際コンソーシアム	玲
導的健康長寿学術研究推進拠点	
を反応場に用いる有機資源循環科学・工学	
世代メディア・知的社会基盤	
域立脚型グローバル・スタディーズの構築	
人の人間科学プログラム	
代アジア学の創生	
暨中国学研究センター	



つて砂丘を抱え、長年に亘って砂漠について研究してきました。成果が結実し、厳しい戦いを強いられたところもある。岩谷は2件申請したが、ゼロ。ものづくりと貢献を結びつける構造訴えた森邦夫工業部「選考の仕方がはつしない」と話す。

いを
原型
とし
つ選
が、
させ
て名
ら事
審査した。
今回決まったのは5分
ラムが選定された。鳥取

野で、生命科学28件、化
学・材料科学21件、情報
電気・電子20件、人文
科学20件、学際・複合・
新領域24件。

準の拠点に育てること
を目的として年間1億
~5億円が配られる。
2年終了後の中間評価で
打ち切られる場合もあ
る。
来年度には残り1分野
の選考が行われる。

「競争は激しいです
ね」。岡村弘之学長は言
葉を詰まらせた。千葉県
野田市のキャンパスの

青山学院大理工学部付
置先端技術研究開発セン
ター等のリーダー秋光純
教授は「ホウ化マグネ
シウム」という超伝導物
質を中心とした研究を行
なさるなど、従来の東大と
大いに連携を図りながら、
社会貢献活動も積極的に行
なっている。

質を発見して、世界的な注目を浴びた研究者た。「エネルギー効率化のための機能性材料の創製」という研究テーマが選ばれた結果は予想通りだった。採択数をそろえてトップに来た大学の「序列」を意識

基準の公開を

濱名篤・関西国際大教授
(教育社会学)

院大理工学部付
術研究開発セン
リーダー秋光純
二ホウ化マグネ
という超伝導物
質を発見して、世界的な
注目を浴びた研究者だ。
「エネルギー効率化のた
めの機能性材料の創製」
という研究テーマが選ば
れた。帝大中心の結果は予想通りだった。
東大と京大の採択数をそろえてトップにするなど、従来の大学の「序列」を意識
したのではない。
しかし、これは税金を正当に配分する
という重要な事業だ。何を基準に選んだ
のか、批判にたてる採択過程や評価基準
を公開する必要がある。そのうえで採択
されなかつた大学が、異議申し立てをで
きるシステムも確立するべきだ。
評価基準が不透明なままでは、大学側
は何を競えばいいのかもわからない。科
学技術などの研究評価は比較的容易なは
ずだ。論文が引用された回数など量的な
基準も盛り込める。
国際競争力を高めるために研究拠点を
つくるという政策は否定しないが、中央
で非公開体制のまま選ぶなら、大学の競
争力は高まらないだろう。

び脱する一步

部征夫・東京工科大教授
(生物電子工学)

大理工学研究科電工学専攻の飯島授は、ナノテクノロジーなどで注目されだ。今までの日本の大学は、横並びだった。「三井東大」が各地にあるようなもので、学部学科などの構成も同じ。その中で、より伝統があるて有名な大学に、良い研究者や学生、研究費が集まる構図だった。遅すぎた感もあるが、21世紀COEプログラムは競争化への一步と言える。今回は東大や京大の研究が採択数トップでも、今後もたもたしていたら、大学の序列が変わることもある。選ばれたいと考える大学が横並び主義を捨て、良い研究者を引っ張り、必死で特徴ある研究を進めるからだ。

そうしたことを繰けば、日本の科学技術が飛躍的に発展する可能性がある。競争させには、フェアな評価が必要になる。審査基準を公開するなどし、より公平なシステムを確立することは課題だろう。

加配分しただけな 信感もくする。
との冷ややかな こうした疑問が生じて
のものについて も、審査委員会が具体的
に焦点を当てて な審査過程や審査基準を
「格付け」 非公開にしているために
を競わせる 確認できないのも批判的
ことが教育 的だ。選に漏れた大学の
関係者は「説明責任が果